

第 95 回 GSDM プラットフォームセミナー 国際シンポジウム「プライベート・スタンダードと グローバル・ガバナンス：可能性と課題」

1 概要

日時：2018 年 1 月 15 日(月)13 時～17 時

会場：東京大学国際学術総合研究棟 SMBC アカデミアホール（〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1。国際学術総合研究棟の位置につきましては以下をご参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_01_07_j.html)

使用言語：英語

参加：事前登録制

主催：東京大学 GSDM（博士課程社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム）

協賛：一般財団法人 貿易研修センター

2 背景と論点

今日のグローバル市場において、私企業、業界団体や NGO が環境保護と資源保全、労働条件、人権保障や食品安全などの社会的問題への対処を図るために企画・基準を策定し、それらに適合する認証を獲得することを調達・購買の条件とする例が増加している。「プライベート・スタンダード」と総称されるこれらの規格・基準は、グローバルな供給網の全体において社会的課題に取り組み、供給網を構成する個別の国家の規制の不備を補完しており、グローバル・ガバナンスにおいて重要な役割を果たしている。他方において、プライベート・スタンダードが急増した結果、規格・基準の断片化や遵守費用の高騰のため、特に途上国の中小のサプライヤーにとって規格・基準を遵守することが難しくなっている。プライベート・スタンダードは社会的課題へのグローバルな取り組みと公正で包摂的な供給網の促進というグローバル・ガバナンスの課題を投げかけている。

本シンポジウムは、プライベート・スタンダードの急増に起因する可能性と課題につき、国際関係論、国際経済学と国際経済法学の立場から多角的な検討を加える。

3 登壇者(氏名アルファベット順)

- 1) Rogério CORREA (ブラジル自主的持続可能性基準プラットフォーム事務局長; ブラジル国家度量衡局 (INMETRO) 研究員)
- 2) 福永有夏 (早稲田大学社会科学総合学術院教授)
- 3) Steffen HINDELANG (ベルリン自由大学法学部准教授)

- 4) 河合正弘 (東京大学公共政策大学院特任教授)
- 5) 米谷三以 (経済産業省通商政策局通商法務官)
- 6) 中川淳司 (東京大学社会科学研究所教授)
- 7) Fiona SMITH (リーズ大学ロースクール教授)
- 8) 田村暁彦 (政策研究大学院大学教授)

4 プログラム

12 時 30 分：受付開始

13 時：セミナーの説明と登壇者の紹介（中川淳司）

13 時 10 分：第 1 セッション「プライベート・スタンダードとグローバル・ガバナンス：法的論点と課題」

モデレータ：中川淳司

パネリスト：Fiona Smith, “Agricultural Standards in Global Supply Chains: A Regulatory Challenge for the WTO?”

福永有夏, “Private Standards and Regulatory Co-operation”

Steffen Hindelang, “Mapping the grey areas: Private-public standards referenced in international investment agreements”

米谷三以, “Private Standards and WTO/Competition Law”

15 時：休憩

15 時 20 分：第 2 セッション「プライベート・スタンダードとグローバル・ガバナンス：プライベート・スタンダード普及に向けた課題」

モデレータ：中川淳司

パネリスト：河合正弘, “Private Standards and Global Governance: The Role of Credit Rating Agencies”

Rogério Correa, “Brazilian Platform of Voluntary Sustainability Standards”

コメンテータ：田村暁彦（第 1 セッション、第 2 セッションのパネリストの報告に対して）

16 時 50 分：総括

5 問い合わせ

中川淳司（GSDM 教授/東京大学社会科学研究所教授。E-mail: nakagawa@iss.u-tokyo.ac.jp）